



神奈川県内介護保険事業所における若年性認知症の人の受入れに関する調査結果

I 調査の概要

1 経緯及び目的

神奈川県では、平成23年度に若年性認知症の実態調査を実施し、平成29年度からは若年性認知症の人と家族の支援の強化のため、若年性認知症支援コーディネーターを配置した。

平成29年度には、障害者就労支援事業所の受入状況調査を実施し、更に本人が活用できるサービスの可能性を広げるため、介護保険事業所（通所系）に対して受入調査を実施した。

2 実施主体 神奈川県高齢福祉課

3 調査期間 期間：平成30年9月21日（金）～10月31日（水）

4 調査対象及び調査方法

(1) 調査対象（介護情報サービスかながわで検索。平成30年8月末現在）

下記事業を実施している事業所

①通所介護	1,054件
②地域密着型通所介護	1,382件
③認知症対応型通所介護	283件
④通所リハビリテーション	289件
⑤小規模多機能型居宅介護	307件
⑥看護小規模多機能型居宅介護	47件

合計 **3,362件**

（うち若年性認知症受入れ加算 1,019件）

(2) 調査方法

介護保険事業所（通所系）を実施している事業へ、若年性認知症の人の受入状況についてアンケート調査を実施。



II 結果

1 回答者状況 回答数は、437件（回答率13.0%）であった。

(1) 地域別内訳 横浜市163件、相模原市30件、川崎市29件の順が多かった。

(2) 事業の種類別内訳

①通所介護	148件（回答率14.0%）
②地域密着型通所介護	182件（回答率13.1%）
③認知症対応型通所介護	26件（回答率9.2%）
④通所リハビリテーション	33件（回答率11.4%）
⑤小規模多機能型居宅介護	40件（回答率11.4%）
⑥看護小規模多機能型居宅介護	8件（回答率11.4%）

2 受入の有無

(1) 受け入れている、又は検討中の事業所 53事業所

○事業の種類別内訳

地域密着型通所介護	24件
認知症対応型通所介護	11件
その他	18件

○地域別内訳

横浜市24件、川崎市7件の順が多かった。

○受入人数

現在通所中	76人
検討中	5人

主なプログラム内容（複数回答） N=139

内容		件数
屋内活動 計 108	1 体操・スポーツ	44
	2 軽作業	22
	3 スタッフ介助	14
	4 掃除	9
	5 その他 写し絵等の創作活動／料理／脳トレ／音楽療法／マシーントレーニング／筋トレ／ゲーム／日々の日常生活の活動を行う／散歩／歩行訓練症状が重く取組めない／検討中等	19
屋外活動 計 31	1 掃除	7
	2 体操・スポーツ	5
	3 軽作業	5



4	スタッフ介助	4
5	その他 他者とのかかわり／散歩／外出レク／検討中等	10

通所者に対する支援（複数回答） N=70件

項目	件数
1 ほぼ同じプログラムで職員を常に配置	32
2 ほぼ同じプログラムで支援	17
3 異なるプログラムを作成し支援	11
4 ボランティア的な役割を担っている	5
5 その他 内容：ほぼ同一プログラムで対応／個別プログラムで支援／前頭側頭葉変性症で 少しずつ反社会的行動が出てきているため1対1での対応となり人員的に困 難になりつつある。	5

受入れに当たっての課題（複数回答） N=99件

項目	件数
1 他の利用者との関係がうまく保てない	20
2 症状に合わせたプログラムを立てることがむずかしい	18
3 作業やプログラムをこなすのが困難	17
4 継続して受け入れできない可能性がある	15
5 知識や技術を持っていない	8
6 相談できる外部機関がない	4
7 事業所サービスを十分利用できない	3
8 家族が満足できるサービスが事業所にない	1
9 未記入	4
10 その他 内容：他市町村から問い合わせが来るが地域密着型なので送迎が難しい／本人 の状態にサービス内容が合っているかの評価が難しい／他市町村の方を受 け入れているが実費対応になっている／共生型サービスの中で、就労A (B) や、認知症対応型通所介護サービスとして提供可能になることを願 う	9

今後の受入れについて N=53件

項目	件数
1 今後も受け入れたい	42
2 わからない、又は相談内容で判断	9
その他 内容：受入中で病状や状態の変化今後検討が必要／同時に2名の受入は厳しい。	2



○主な意見 26件

- ・受入準備として、事前調査から本人家族の状況をアセスメントし、どのようなプログラムやかかわり方が必要か検討することが重要。
- ・早期から受入れ関わることで、信頼関係を構築し対応するため、症状が悪化しても継続して通所につながっている。
- ・受入先のスキルとして、他の利用者と若年性認知症の人への関係性をフォローすることが必要であり、スタッフ側の力量も非常に重要。
- ・病状進行のため、他の利用者のようにできなくなっていく本人不安を受け止めることや、就労・子育て等の時期にかかるので家族の負担が大きい。

<以下回答内容>

- ・その方にとって、楽しい事、快く感じる事、おもしろいと思う事などをたくさん発見して、色々な刺激を受けて頂けるようなサービスをしていきたいと思っています。
- ・今の所若年性認知症といっても他の認知症の方と変わらず対応しております。問題になる行動等も見受けられません。これからも注意して見守って行こうと考えております。
- ・依頼があれば、よほどの理由がない限り受け入れている。受け入れ後、問題が出てきた時点で対策を考える。
- ・症状の進行の早さにご家族が理解されず、就労、子育ての時期に重なりご家族の負担も大きいと感じます。またほかのご利用者様と機能訓練を行う事の難しさを感じますが、できることを少しでも継続できるように支援していく必要があると思います。
- ・現在ご利用されている方は2人目ですが、以前ご利用されていた方は、年齢が若い為周りのご利用者様から利用し始めはいろいろ聞かれてしまう事が多くあり職員のフォローが必要不可欠でした。慣れてしまうと楽しそうにご利用して頂いていますが、出来ないことが次々増えていきわからなくなっている事もご本人は自覚しているので、その部分でのフォローも難しいと感じています。
- ・これから利用者としてだけではなく、スタッフ補助等のボランティアとして活動できる利用者様の受け入れもしていきたい。
- ・現在スタッフ補助等のボランティアとして活動している利用者様有。これからもそういった形での受け入れも続けていきたい。
- ・事前調査で、提供可能なプログラムを検討することで支障なく受け入れられる。
- ・あるご利用者は、判断力や理解力があるときに通所を開始され、サービス利用に慣れていらっしゃるためか、症状が進行して乱暴な行動が出て、当事業所のスタッフに対して手を出されることは一切ありませんでした。当該事例から、信頼関係を早期に築くことで、症状の進行に合わせたケアが可能であると感じました。
- ・若年性の人も他の認知症の人もみなさん大変いきいき通所しています。ワーキングデイでは、作業内容がおおむね決められているので病気が進行した時の受け入れが難しくなると感じています。ただし、そのような場合は隣接する認知症対応型通所介護での受け入れは可能です。また、ケアマネージャーの理解不足からか若年性認知症の人の紹介が少なく、受け入れたいのに人数が少ない状況です。
- ・小規模の場合、場所も小さくできる事は限られていますが、臨機応変に対応できる強みはあると思います。
- ・現在利用者は1人、3年6ヶ月前までもう一人いたが入所をされた。共に在籍期間は8年以上の利用で主治医も驚いており家族も喜んでくれている。小さい事業所の為目配りや動作により刺激を与えられていると思う。現在いる利用者のご家族は施設を申し込んでおられたが順番が回ってきた際施設をキャンセルし継続利用されている。施



設よりデイを選ばれたことに職員は喜んでいました。女性の利用者の為長期間利用可能でしたが男性利用者の場合力が強く粗暴な事もあり5ヶ月で終了した利用者が9年前に1人おりましたので3のわからないにも〇をつめました。

・若年性認知症の方は一般的な認知度も高くなってきましたが、多くのデイサービスでは受け入れ態勢やプログラム、対応の難しさからサービスにつながらずご家族への負担が多くなっている印象です。ケアマネージャーやご家族を中心に若年性認知症に対応しているサービスの周知や事業所同士の研修会などを実施してもっと広く一般的に周知をしていきたいと考えています。

・スタッフだけでなく他利用者の協力・理解も必要であるため、事前に説明・場合によりフォローを行うよう心掛けています。また、定期的に事業所内勉強会を実施し「わかっているつもり」にならない様、また初心を忘れぬ様事例をもとに「考える力」を養っています。

・ごく最近利用開始し、利用は3回。ケアマネからの相談では高次脳機能障害との情報だったが、主治医意見書にはその旨が書かれておらず、認知症自立度二。他の認知症高齢者とプログラムの選択肢が同じで良いとのことを開始したため、現在は認知症加算で対応中。どんな診断がどの書類で素明されれば、どの加算が適切なのか、介護保険の中でも分かりにくい。診断による分類以前に、複数制度にまたがり、助言をしたり、より良い選択肢を示せる相談職がない。

・定員7名だと、若年の場合病気の進行が早い方もおり、最近では8・9月と入院や自施設での対応が出来なくなり利用中止となった若年だけのデイサービスは経営的には定員割れなど非常に厳しい現実があり10年経営が持ったのは奇跡！ショートステイ利用も、若年型の施設はなくご家族は頭を痛めていらっしゃいます。今日も70歳(AD)の居場所を探されているご家族からの相談を受けております。若年とは65歳以前に診断を受けた方ですが、昔より若い方が多いので70歳位でも身体機能的には若年に入ると思いますが。

・認知症のご利用者を多く受け入れてきた経験をもとに支援しています。

・対象者2名、認知症状の進行が顕著であり、活動における他者とのバランスに配慮している現状です。

・指示がとらないため、他の方からなぜしないと言われる。言うほうが忘れて何度も言う。本人はイヤな気持ち(怒る)になるが皆と同じテーブルにいて楽しんでるので別メニューは考えていない。

・高齢のご利用者様とは違う感性をお持ちなので、その方に合った支援方法の検討・選択が今後の課題だと感じます。

・ご本人様が自ら「周りの方(職員)の様に動けない(働けない)」と悲観的に責められる場合がありますので、なるべく“皆の役に立っている”“仕事をしている”という達成感を持つ事が出来る様、支援を行っております。

・若年性認知症の人を支援することは簡単ではない事を3年5ヶ月サービスを提供してきた事で痛感しています。この間、亡くなられた方は5名、病態像の差が激しい(例えばガンを患い助かる人、亡くなる人がいる)ことも支援を難しくしている一つの要因だと思います。認知症の初期・中期・後期といったようにその段階に特化してサービスすることも一つだと思いますが、病状が進行したからと言ってサービスが継続できなくなることをご本人・ご家族は望んでいません。やはり、初めから終わりまでトータルでケアできる事が望まれている事でしょう。神奈川県に若年性認知症に特化したサービスが今後増えていくことを願うばかりです。

・ご本人様とは意思疎通が取れず、全てご主人様が決定される。こちらからの意見もなかなか受け入れてもらえず、なにがご本人様にとって良い事なのかをもっと相談していく必要があります。

・必要として頂けるようであれば、対応していきたいと思っています。

・1人1人の病気の進行度に応じて、必要なプログラムも変わってくると感じています。介護保険制度ではサービス利用時以外の生活全体を視野に入れた支援が難しいと感じています。



・65歳未満利用者は現在1名ですが、65歳以上65歳未満発症の利用者は他に3名利用しています。体力的には高齢者と違い、ご本人たちも「人の役に立ちたい」気持ちを強く持っており、介護される側に抵抗を感じています。

(2) 受け入れていないが過去に受け入れていた経験のある事業所 100事業所

○事業の種類別内訳

通所介護	45件
地域密着型通所介護	38件
その他	17件

○地域別内訳

横浜市32件、川崎市13件、相模原市9件の順が多かった。

若年性認知症のサービスが終了となった理由 N=100件

項目	件数
1 症状が進行し、他のサービスに変更になった	61
2 本人から辞めたいとの申し出があった	3
3 家族から辞めたいとの申し出があった	3
4 わからない	4
5 その他 内容： 対応困難で他のサービスに移った／症状が悪化し入院・施設入所になった ／本人の希望／死去等	29

現在、受け入れていない理由 (複数回答) N=144件

項目	件数
1 利用申請がない	97
2 他の利用者との関係がうまく保てない可能性がある	9
2 若年性認知症の症状が進行すると継続して受入れができなくなる可能性がある	9
3 定員がいっぱいで受け入れられない	7
3 若年性認知症の症状に合わせたプログラムを立てることが難しい	7
4 家族が満足できるサービス内容でない	3
7 移送に関して困難がある	2
8 若年性認知症の症状のため、他の利用者に比べ作業やプログラムをこなすのが困難である	2
9 職員が若年性認知症に関する知識や技術を持っていない	2
10 本人が事業所のサービスを十分利用できそうにない	2
11 関係機関や医療機関との連携が取れていない	1
12 支援に関して相談できる外部機関がない	1



14 その他 内容： 家族から高齢者ばかりで合わないと言われた／プログラムをこなすことが困難	2
---	---

今後の受入れについて N=100件

項 目	件数
1 受け入れできる	74
2 わからない又は相談内容で判断 内容： ご本人の希望と提供サービスの検討が必要／他の利用者との関係の調整が必要／定員がいっぱい／継続受入れが困難／送迎困難／人員不足	25
3 受け入れできない 内容： 現状として、スペースを広げて確保する事は難しく、利用者の方にゆとりのあるサービスを提供できないため	1

○主な意見 26件

- ・現在利用申請がない
- ・他の利用者との関係など難しい
- ・進行性の疾患のため、長期的なプログラムを考えることが困難

(3) 受け入れていない事業所 284事業所

○事業の種類別内訳

地域密着型通所介護	120件
通所介護	95件
通所リハビリテーション	28件
小規模多機能型居宅介護	28件
その他	13件

○地域別内訳

横浜市107件、藤沢市20件、相模原市・平塚市19件の順で多かった。

受け入れていない理由（複数回答） N=457

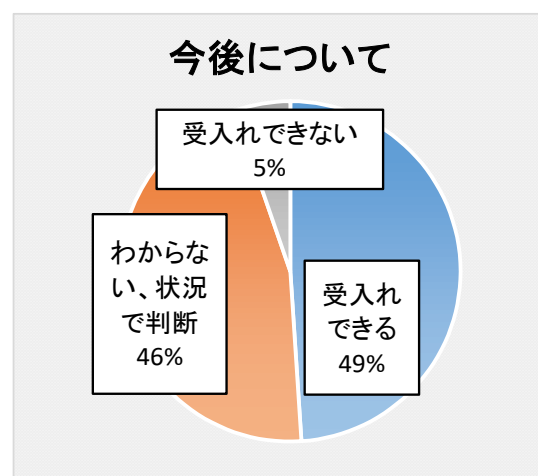
項 目	件数
1 利用申請がない	273
2 他の利用者との関係うまく保てない	48
3 本人の症状に合わせた、プログラムが困難	41
4 継続して受入れできなくなる可能性	17
5 知識や技術を持っていない	16
6 定員がいっぱいで受け入れられない	11
7 他の利用者に比べて作業やプログラムをこなすのが困難	11
8 事業所のサービスを十分利用できそうにない	9



9 事業所の利用規定に合わない	7
10 家族が満足できるサービスが事業所にない	6
11 関係機関や病院との連携が取れない	4
12 相談できる外部機関がない	4
13 通所や外出支援に関して困難がある	1
14 その他 内容：スタッフ不足／定員がいっぱい／相談がない／医療依存度の高い人を受け入れているため難しい／受け入れられるが周知が出来ていない等。	9

今後の受入れについて N=284

項目	件数
1 受け入れできる	139
2 わからない、又は相談内容で判断 内容：利用申請がなく判断が困難／職員のスキルの問題／関係機関との連携が不安／本人の状態・状況で判断する／機能訓練型なので本人の状況にあっていれば受け入れられる／他の利用者との関係が心配等	130
3 受け入れできない 内容：個別プログラムが難しい／家族が満足できるサービス内容でない／定員がいっぱい／他の利用者との関係が保てない等。	15



○主な意見 26件

- ・利用申請がないため、受け入れたことがない
- ・スタッフのスキルがない
- ・人材不足、事業所の体制等の課題
- ・利用者に高齢者が多いので、申請をためらっている方が多いのではないのか
- ・今後受入れは可能であるとの意見も多い。
- ・事業所が受け入れ可能であること等の周知が必要。
- ・相談できる外部機関がない
⇒ 今後若年性認知症支援コーディネーターの周知が必要と思われる。
- ・受け入れが今後増えるかもしれないので勉強会なども必要
⇒ 研修会等の開催による周知が重要



まとめ

- ・介護保険事業所へ若年性認知症の人を受け入れる場合、事前調査から本人家族の状況をアセスメントし、どのようなプログラムやかかわりが必要か検討することが重要。
- ・早期から関わることで信頼関係を構築するため、症状が悪化しても継続して通所につながっている。
- ・受入先のスキルとして、若年性認知症の人の病状進行にともなう状況から、それ以外の利用者との関係性をフォローすることが必要。
- ・病状進行での本人の不安を受け止めることや、介護と仕事を両立や子育て等家族の支援も重要。
- ・昨年度実施した障害者就労支援事業所に比べ、受け入れできると答えている割合が高く、事業所からは、若年性認知症の人の受け入れ可能であることのPRも必要との意見もあった。